

0 理念・目的・教育目標

進捗状況報告

1) 「教員組織」に記述したように「将来構想・研究体制検討委員会」の答申が前学長に提出され、そのなかで新たな「センター」の理念及び目的として『キリスト教主義教育に基づく開学スピリットを実現するために学部の枠にとられない教育力の向上と学生の学習支援に資する研究および実践的な教育支援を行う』ことが提示された。この答申内容を考慮して現学長の下で大学としての「教育力の向上」に向けた新たな施策が検討されている段階で、すでに総研はFDなどの教育・学習支援分野における活動を強化し始めている。

2) 上記の目的に向けて「創設35周年記念事業」として下記の講演会・シンポジウム・を行った：
・シンポジウム「Education for Life ～地域連携教育の推進～」 11月9日(金)
・講演会「石原都政と教育改革」「高等教育改革の理念型としてのアメリカの大学」
パネルディスカッション「高等教育政策と日本の大学の生存戦略」 11月30日(金)
・講演会「高精細画像による美術作品研究の可能性～近世絵画をめぐって～」
・座談会「高精細画像による文化財研究の意義」 2月29日(金)
それぞれの会合は関学会館で開催され、学内外からの参加者を得て質疑応答なども活発に行われた。

3) 教育工学の分野においては総研サロンを3回開催した：
・「e-ラーニングのユニバーサルデザイン化によるFD効果」 10月26日(金)
・「大学連携によるe-ラーニング」 11月16日(金)
・「Gridの概念を用いた情報教育」 12月7日(金)
総研サロンは総研の会議室で行われ、先端的な研究と実践に基づく報告の後に活発な市質疑応答・討議が行われた。少数であるが熱心な学外からの参加者も得て総研の活動を広報する機会ともなった。

4) ホームページの強化については総研の案内などの内容は関学広報のWEBサーバに移行したが、過去の研究成果・出版物などのアーカイブコンテンツについては総研独自のサーバを外部委託で活用することとした。これは2008年度の課題となっている。

5) プロジェクトの分野と教・研究費の重点配分については、高等教育・教育工学の分野において教育支援・活用に資する研究開発により重点を置いたプロジェクトが設定された。

6) 研究・調査成果の発表・公開については「総研ジャーナル」「総研論集」「FDニューズレター」(発展的に「総研ニューズレター」と改称された)及び総研発行の報告書、学会報告などが活発に行われた。教育関連の学協会の活動にも積極的に参加し、役員や研究会幹事などの活動を通して総研の活動の広報を行った。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

FD活動に関しては総研主体の取組として、総研サロンの開催やFDニューズレターの発行により情報発信を行ってきた。また、総研内に蓄積された過去の授業評価の調査結果を活用することで、各学部で実施される新たな授業評価の解析や比較を行う準備ができており、大学全体への取り組みにも協力できる。

学内第三者評価

「将来構想・研究体制検討委員会」が組織され、答申が作成されたことは着実に検討が進んでいるものと認められる。同答申を受けつつ、理念的目標、具体的目標を適切かつ明確に設定し、その実現へ向けての活動を持続的に評価する仕組みを検討することが期待される。

また、従来からの各分野の活動について着実に遂行されていると認められる。

教育力の向上と学生の学習支援を目標の一部に掲げる部門として、以下の点(全学部共通)について留意されたい。

(以下、全学部共通)

2006年度に受けた認証評価の結果において、「FD活動の一環である各学部の授業評価アンケートは、2005(平成17)年度からは全学一斉に同一フォームで行っており、結果を公表している。しかし、その結果を授業改善にどのように反映させるのか具体的な方策が明確になっていない。また、各研究科では、これまでFD活動に組織的に取り組んできたとは言えない。しかし、2006年度(平成18年度)に大学院ファカルティ・デベロップメント部会」が設置され全学的検討が開始されたところなので、今後の活動に期待される。」との助言を全学的に受けている。

本学では2008年度に全教員が担当するすべての授業科目を対象とした授業評価アンケートを実施する。2008年度の授業評価のアンケート結果と2005年度および中間年の授業評価のアンケート結果とを比較、分析し、授業改善につなげるとともに、それを社会に説明していくことが強く求められている。

また、大学設置基準の改正により大学院に続いて大学においても2008年度からFDが義務化された。

※ 大学設置基準

第25条の3(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

大学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修を実施するものとする。